

2日 木曜

列王 I

12:12 ヤロブアムとすべての民は、三日目にレハブアムのところに来た。王が「三日目に私のところに戻って来るがよい」と命じたからである。

12:13 王は民に厳しく答え、長老たちが彼に与えた助言を退け、

12:14 若者たちの助言どおりに彼らに答えた。「私の父がおまえたちのくびきを重くしたのなら、私はおまえたちのくびきをもっと重くする。私の父がおまえたちをむちで懲らしめたのなら、私はサソリでおまえたちを懲らしめる。」

12:15 王は民の願いを聞き入れなかった。かつて【主】がシロ人アヒヤを通してネバテの子ヤロブアムにお告げになった約束を実現しようと、【主】がそう仕向けられたからである。

12:16 全イスラエルは、王が自分たちに耳を貸さないのを見てとった。そこで、民は王にことばを返した。「ダビデのうちには、われわれのためのどんな割り当て地があろうか。エッサイの子のうちには、われわれのためのゆずりの地はない。イスラエルよ、自分たちの天幕に帰れ。ダビデよ、今、あなたの家を見よ。」イスラエルは自分たちの天幕に帰って行った。

12:17 ただし、ユダの町々に住んでいるイスラエルの子らにとっては、レハブアムがその王であった。

12:18 レハブアム王は役務長官アドラムを遣わしたが、全イスラエルは彼を石で打ち殺した。レハブアム王はやっとの思いで戦車に乗り込み、エルサレムに逃げた。



12:19 このようにして、イスラエルはダビデの家に背いた。今日もそうである。

12:20 全イスラエルは、ヤロブアムが戻って来たことを聞いたので、人を遣わして彼を会衆のところに招き、彼を全イスラエルの王とした。ユダの部族以外には、ダビデの家に従う者はいなかった。

レハブアムはソロモンの子でしたが、アモン人の女性との子です。すなわち異教の母のもとに育ち、異教を身に着けた人であったのです。そのような王が神様に従って信仰的統治をするはずはなく、彼は苦役を逃れたいと嘆願する民に、「くびきをもって重くする。」と、無慈悲な態度で答えました。

これが王国分裂の直接の原因となり、もはや「ユダ部族以外には、ダビデの家に従う者はいなかった」という、王国の分裂を招いたのです。ソロモンにも問題がありましたが、彼の子であるレハブアムも、父がなぜ成功したのか、その知恵がどこから来たのかを、謙遜になって知るべきでした。悪いところだけを見習ってしまったようです。

聖書はソロモンの残したことばにも、神様のみどころが表されているとして、聖典となっているものがあります。私たちは人の信仰の良いところに目を留めて、そこから主が語られることを聞くべきです。悪いところを指摘するだけでは無益です。または悪いところを都合よく見做ってしまうのも神の御心ではありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

